

# 骨粗鬆症の薬の使いかたと治療の続けかた

患者さんに寄り添う、治療開始の判断から薬の選びかた・使いかた・注意すべき合併症、食事・運動療法まで

## contents

◆ 序	小川純人
◆ 略語一覧	6
◆ 執筆者一覧	10

## 第1章 骨粗鬆症の治療の始めかた～誰に始めるか・いつ始めるか

1 骨粗鬆症のリスク因子とその評価	矢可部満隆	14
2 骨粗鬆症の定義・診断基準	今井教雄	21
3 骨密度測定	鷹見洋一	27
4 骨代謝マーカー測定の意義	佐藤友紀	35
5 骨粗鬆症性（脆弱性）骨折の診断・評価	森 諭史	41
6 骨粗鬆症の診断において鑑別すべき疾患	田井宣之	49
7 骨粗鬆症薬物治療の開始基準	金沢一平	59

## 第2章 骨粗鬆症治療薬の選びかた・使いかた

1 骨粗鬆症診療の現状	中藤真一	66
2 骨粗鬆症薬物療法の第一選択薬の考えかた	沖本信和	74
3 カルシウム製剤	田中健一, 岡田洋右, 田中良哉	81
4 活性型ビタミンD <sub>3</sub> 製剤	遠藤逸朗	88
5 ビスホスホネート (BP) 製剤	井戸田裕貴, 井上玲子, 井上大輔	95

6 選択的エストロゲン受容体モジュレーター (SERM)	寺内公一	105
7 副甲状腺ホルモン (PTH) 製剤	田中伸哉	111
8 RANKL 阻害薬	高士祐一	119
9 ロモソズマブ	高田潤一	126

### 第3章 骨粗鬆症治療薬の切替の判断～患者さんに合わせた治療

1 薬物療法開始後の経過における注意点と治療評価	山内美香	136
2 治療効果不十分と判断する場合と切り替えのタイミング	蛭名耕介	142
3 副甲状腺ホルモン (PTH) 製剤からの切り替え, 逐次療法	宮城正行	146
4 ロモソズマブからの切り替え, 逐次療法	宮内章光	152
5 RANKL 阻害薬 (デノスマブ) からの切り替え, 逐次療法	小早川知範	160

### 第4章 骨粗鬆症と合併症～注意すべきリスクとその管理

1 カルシウム製剤, 活性型ビタミンD <sub>3</sub> 製剤, PTH 製剤における高カルシウム血症のリスクとその管理	野津雅和	168
2 ビスホスホネート (BP) 製剤における顎骨壊死のリスクとその管理	田口 明	175
3 エストロゲン製剤やSERM におけるリスクとその管理	倉林 工, 森川香子	183
4 RANKL 阻害薬を用いた際の有効性, 有害事象のリスクとその管理 ～ステロイド性骨粗鬆症を含めた骨粗鬆症における栄養・運動・薬物療法とわれわれの取り組み	中村幸男	193

### 第5章 骨粗鬆症に対する薬以外の治療と骨折予防

1 骨粗鬆症における運動療法の意義と注意点	新井智之	202
2 骨粗鬆症における食事療法の意義と注意点	上西一弘	210
3 転倒と骨折	渡邊 剛	217
4 転倒予防の方法	和田 崇, 尾崎まり	221
5 サルコペニアと筋骨連関	小川純人	227
6 骨粗鬆症検診	堀井千彬, 吉村典子, 田中 栄	233

◆ 索引		240
------	--	-----